

# 松崎晃治

Kouji Matuzaki

まつぎき・こうじ 昭和33年生まれ。鳴門教育大学大学院修了。教員を経て、平成7年から県議会議員4選。平成15年副議長、17年議長を歴任。平成20年8月、第9代小浜市長に就任。現在、3期目。

小浜市長

## 次代の飛躍につながるまちづくり

これまで以上に「小浜を研く」。その先に、市民の満足度向上、安全安心の暮らしとなる未来があることを信じて――。

### 時代の転機を迎え

平成から令和へ――。  
小浜美郷小学校の開校、北陸新幹線小浜・大阪間のルート決定、新たな形態の農業に向けた取り組みなど、時代の転機を迎えた小浜市の先頭に立ち舵を取る松崎晃治氏。

プロジェクトチームが北陸新幹線敦賀以西のルートを「小浜・京都ルート」と決定。  
北陸新幹線の小浜を通るルートは昭和48年の整備計画決定以来、小浜市の悲願だった。松崎氏も県議初当選から政治目標の一つとして、約30年にわたり市民と力を結集して運動に取り組んできた。その悲願が成就したことを心から喜びたいと言葉少なだが、その胸のう

ちは計り知れないものがある。

就任3期目の松崎氏は、諸施策の総仕上げと位置付け「小浜を研く」を公約に掲げ、①産業をみがく、②観光をみがく、③文化・教育をみがく、④生活をみがく、⑤行政をみがく、の5つの公約を定め、その実現のための各種施策を進めてきた。7月の任期満了を前に、その取り組みや成果をお聞きした。

### 産業をみがく

働きやすい環境の創造と雇用の場の創出は、人口減少問題を考える上で重要な課題の一つであると捉え、植物工場への誘致が4社目となるなど市内の雇用の確保・拡大を図るため多種多様な業種の企業誘致を促進し、雇用確保に努めている。

小浜を代表する伝統産業の

「若狭塗箸」は、積極的に海外にPRを行って新しい販路拡大が期待される。

農業振興では、人口減少・高齢化が進む中、従来の経験と勘に基づく農業から、デー

夕に基づく農業への転換を図るため、宮川地区でIoTなどの新技術を活用したスマート農業の実証実験に取り組んでいる。また農地中間管理機構と連携して農地を大区画化



北陸新幹線「小浜・京都ルート」決定を市民と祝う

し、収益性の高い経営を目指す新たな土地改良事業を創設。県内で初めて飯盛地区で事業が開始され、他の地域でも前向きな話し合いが進んでいる。水産振興については、「鯖復活」プロジェクトが順調に規模を拡大し、昨年は鯖街道で縁の深い京都の酒蔵で製造された酒かすをエサに混ぜて育てた「小浜よつぱらいサバ」として本格出荷を開始。市が行っていたサバの養殖事業を田鳥水産株式会社が担うこととなり、地元の産業としての定着を目指し着実に成果を上げ、今年度は小浜よつぱらいサバの出荷尾数が初めて1万尾を超える見込みだ。市内の取扱店舗数も増え、京都での販路拡大にも取り組んでいる。平成30年11月には、小浜水産高校の生徒が、「鯖街道を宇宙へ」をキャッチフレーズに手掛けた「サバ醤油味付け缶詰」が、若狭高校海洋科学科に引き継がれ12年もの年月を

かけ、宇宙航空研究開発機構（JAXA・ジャクサ）の「宇宙日本食」に認証された。高校生が開発した食品の認証は史上初の快挙であり、長年の努力が実を結んだ。

農林水産業の発展には、新たな担い手の育成が重要であり、市外から就農希望者を受け入れる「おばまアグリスクール」や関係機関と連携し漁業者を育成する「水産カレッジ」、小中学生に農林水産業の魅力を伝える「総合学習プログラム」などを展開し、将来の担い手育成を支援。内外海地区では、水産業の振興と地域活性化に向けて、旧田鳥小学校を改修した水産業活性化の拠点施設や教育旅行の拡充など、地元住民による各集落の特色を生かした取り組みが進んでいる。

食のまちづくりでは、新たな展開として地域おこし協力隊の制度を活用して、料理人を育成し、定住人口・交流人